



2011年の新年に際し

社団法人 全日本建設技術協会 会長 松田 芳夫

新年、明けましてお目出とうございます。

今年、2011年は21世紀の第2旬の最初の年になります。早いもので21世紀に入って丸10年がたちました。

20世紀が革命と戦争の世紀と総括され、21世紀は科学技術の発展と紛争や戦争の無い世紀と期待を集めてスタートしたのですが、現実には2001年9月11日のアメリカでの同時多発テロに始まり、国際紛争は激化の一途をたどりつつあります。

経済の面でも2008年秋のリーマンショック以来、世界的な同時不況に見舞われ、わが国もその渦中に巻き込まれ苦しんでおります。

地球環境問題では、昨年暮、メキシコで行われた第16回国連気候変動枠組み条約締結国会議（COP16）では、温暖化ガスの排出規制に関する京都議定書に続く新しい取り決めを造ることに失敗しました。厳しい経済情勢の下で余計な制約を受けたくないというのがEU以外の主要な国々の本音でした。

わが国では1990年代初期のバブル崩壊以降、基本的にGDP（国内総生産）、税収、賃金、雇用の全てにわたり停滞しており、高齢化の進行により増加する年金、医療費などの福祉費用を賄うため、近年、公共事業費の大幅な削減が進んでいます。

私たち建設技術者にとっては毎年の公共事業費の削減は気がかりですが、事態はそういうレベルを超えて、現世代の我々が子孫に残すべき安全性と環境に恵まれた国土と良質なインフラの整備が不十分な

ばかりか、国債、地方債の残高という形で莫大な負債を子孫に相続させる結果になっていることです。

こういう時代に私たち建設技術者は何をなすべきなのでしょう。公共事業費の大幅削減により新規の事業を行うことが困難になり、修繕や維持管理の比重と重要性が増大するということのようにですが、それでは全く夢がありません。

新規建設に充当する財源は少なくなりますが、事業の重点化を図り、よく考えぬかれた計画とそれを実行するための予算執行制度の改革により、わが国の将来のためにやるべきことは未だいろいろあります。

東京～大阪間を一時間で結ぶリニア新幹線、羽田空港の拡張と国際化に見られるごとく、優れた計画は人々の気持ちを奮い立たせ夢を与えます。新しいテレビ塔・東京スカイツリーは完成前から大人気です。

今年も公務員技術者にとっては厳しい年になりそうですが、秘めた情熱と志をもって仕事に取り組み、社会の縁の下の力持ちとして頑張ってもらえるよう期待しています。多くの国民の気持ちも同じであると思います。

全建と致しましても、会員諸氏の技術力の向上と社会的地位の向上という目標に向け引き続き努力して参ります。

とくに本年は公益法人制度改革の動きの中で、一般社団法人に移行する準備が重なりますので、会員の皆様に御迷惑をおかけすることもあろうかと思いますがこの一年、会長以下事務局一同気を引き締めて頑張る所存です。